

『就実教育実践研究』第11巻 抜刷
就実教育実践研究センター 2018年3月31日 発行

養護教諭養成課程における「生徒指導論」 授業実践の成果と課題

**Results and Tasks for Lesson Practice of “Student Guidance”
in Yogo Teacher Training Course**

渡 邊 言 美

養護教諭養成課程における「生徒指導論」 授業実践の成果と課題

渡邊言美（初等教育学科）

Results and Tasks for Lesson Practice of “Student Guidance” in Yogo Teacher Training Course

Kotomi WATANABE (Department of Elementary Education)

抄録

本報告では養護教諭免許取得のための「教職に関する科目」かつ必修科目である「生徒指導論」の3年間の授業実践を終えての成果を明らかにするとともに、今後の実践に向けての課題と改善すべき点を明確にすることを目的とする。

本授業ではアクティブラーニングの観点から、毎年受講生全員によるプレゼンと質疑を実施している。受講生は発表を通してプレゼンのスキルを磨き、文献調査や準備を通して研究を深めた。発表後は他の受講生からの質問や意見を受け、発表のふりかえり作業や質問への回答、考察を通じて新たな知見や課題を得た。その結果、より充実したレポート作成を行うことが出来た。特に今年度は、新しく導入した掲示板形式の匿名コメントを有効活用することが出来たと考える。

キーワード 生徒指導論、養護教諭、アクティブラーニング、教職課程

I はじめに

筆者は2015年度より「生徒指導論」を担当し、2017年度まで3回に亘って半期2単位、15回の授業実践を行った。養護教諭免許取得のための「教職に関する科目」であり必修科目である。

受講生は本学教育学部教育心理学科の3年生で、全員が養護教諭I種免許取得希望者である。当該年度に養護実習もある。2015年度は実習が授業期間中に実施されたため約1ヶ月休講として補講を実施、2016/17年度は授業終了後に実習参加となった。一部学生は中学・高校I種（保健）免許とのダブル免許取得を目指している。保健免許状取得希望学生は、同一年次に、中等「生徒進路指導論」（他教科学生と同時履修）を必修科目として履修する必要がある、当該学生は内容的に重複する2つの科目を履修することになる。「生徒進路指導論」は心理学を専門とする教員が担当していることもあり、本科目については教育相談の部分や、心理学的な手法にかかわる部分は重複しないようにするという独自の

事情がある一方、養護教諭用に特化した内容を重点的に実施できるという特徴がある。

受講生は多くが熱意を持って養護教諭の職を目指している学生である。受講人数は概ね45名前後。男性が若干名履修する。真面目で熱心だが、どちらかというと積極的に発言することは少ない傾向にある。

本稿は、「生徒指導論」3年間の授業実践についてその成果を明らかにするとともに、今後の課題について考察することを目的とする。

Ⅱ 学校の生徒指導における養護教諭の位置付け

養護教諭は、児童生徒の「養護をつかさどる」教員（学校教育法第37条第12項等）として、児童生徒の保健及び環境衛生の実態を的確に把握し、心身の健康に問題を持つ児童生徒の指導に当たるとともに、健康な児童生徒についても健康の増進に関する指導を行うこととされている。

近年の児童生徒をめぐる環境変化と、学校の役割の増大に対応するためには、養護教諭は生徒指導において、より多様で重大な役割を果たすことが求められる。岡山県総合教育センターは「養護教諭は不登校傾向の児童生徒や、非行や性に関する問題のある児童生徒に日常的に関わる機会が多く、学級の中では把握しにくいいじめや虐待、性被害などの情報を得ていることがあります」とその特性をとらえ、「保健室での情報を生徒指導上の問題と関連づけて生徒指導担当者と情報交換することは、一人一人の児童生徒が抱える問題の本質を的確に捉え、適切に対応していくために必要」としている¹。

筆者は本稿執筆に当たっていくつかの生徒指導に関する文献（研究書、授業テキスト等）を参照したが、生徒指導に関する養護教諭の役割について特化して論じたものは非常に少ない。多くは生徒指導の組織の中に、「保健・安全指導」担当として位置付けられているほか、教育相談業務の説明の中で紹介される程度である²。

しかし中には、生徒指導上の問題、特にいじめ対策として養護教諭の役割に焦点をあてた研究があり、注目すべきである³。養護教諭の具体的いじめ対応や、いじめ予防授業例、コーディネーター的役割について示されており、現場での対応の指針となると思われる。

Ⅲ 養護教諭養成課程に於ける「生徒指導論」授業の実践例

以下に3編の授業実践例を紹介した論考を紹介する。

①梨木（2011）は、1990年代以降の生徒指導論テキストの分析から、発行が新しいテキストの方が具体的な問題行動についての説明が多くなって来ていることを指摘し、中でも問題行動への対応をめぐる養護教諭と他の教職員との連携についての記述は「極めて少ない」と指摘した⁴。また梨木は大学授業実践での大学生の「ふりかえり」実践の報告を行っている。特に保健室との関わり、問題行動（不登校・いじめ）に関するふりかえり作業を通して、養護教諭の意義について学生が自分なりに整理をしたり、受講前後の意識の変化について考えさせている。

②梨木と幡中（2013）は、「実践」重視の観点から、養護教諭養成課程「生徒指導論」での取り組みを中心に、ロールプレイングの意義について考察した⁵。2012年度は現職養護教諭がゲストティーチャーとして2コマ分（講話とロールプレイングの助言）参加している。ロールプレイングを素材に現職養護教諭との意見交換をするという授業形式が、受講者に教育現場での「実践」「役割」の意図を意識させるうえで極めて有意義であること、他者に対することばのかけかたや姿勢等細かい点への配慮により養護実践を円滑にすすめるためのシミュレーションとしても有効であることを指摘した。

③森・黒岩（2017）は、養護教諭養成課程の「生徒指導論」のアクティブラーニング導入の効果と課題について論じた⁶。1回のディスカッションと8回の学生によるプレゼンテーションを実施した結果について考察している。授業は2名が担当し、1名は元養護教諭である。授業ではディスカッションが校則を題材として行われ、プレゼンテーションはいじめ・不登校それぞれに4テーマで実施されている。授業を通して、一方的な講義よりもアクティブラーニングの手法を用いた講義のほうが、学生の能動的学修の観点から高い効果が期待できることが示された一方、学生が授業時間外での準備に過重な負担を感じるという課題があることも明らかとなった。養護教諭経験者の講師のコメントが有効という指摘もあった。

以上、少数ではあるものの、3編の実践に共通してみられるのは以下の3点である。

- (1) 現職あるいは元養護教諭の参画があることである。彼等からの講話、プレゼンへの助言、情報が、生徒指導上の問題を経験していない、あるいは養護教諭経験のない受講生の理解を助け、より実践への興味や意欲を高めることが期待されている。
- (2) なんらかの学生の能動的な取り組みがあることである。①は自身の保健室経験のふりかえり、問題行動に関する意見交換がなされている。②はロールプレイングが実施され、③ディスカッションと学生によるプレゼンテーションが実施されている。
- (3) 受講生が少人数と思われることである。①は人数不明であるが、②は11名（2011年度）であり①と同一筆頭筆者。③は12名。いずれも少人数構成であると思われる、アクティブ・ラーニングの導入が容易な状況にあると思われる。

Ⅳ 本学養護教諭教職科目「生徒指導論」授業概要

筆者は初年度授業より、以下の3点に重点をおいて授業を実施してきた。

- 1：テキスト『生徒指導提要』の概要を把握する。教員採用試験にも頻出素材であるため、採用試験対策も意識する。
- 2：養護教諭の立場からみた生徒指導の実践的なありかたについて学び、現場での対応について考える。
- 3：養護教諭をめぐる社会的動向について理解を深める。

実施形式としては、前半は講義、後半は受講生によるグループ発表と質疑、補足という

2部形式をとっている。学生が受け身でなく、主体的に学ぶこと、学生同士の相互交流をはかること、プレゼンの準備や実施の訓練を行うことを目的としている。2017年度は以下の通りである。

- ・ 第1－4回 講義
- ・ 第5－14回 学生グループ発表
- ・ 第15回 総括
- ・ 評価は学生のグループ発表とレポート、受講態度の総合判定。

以下、2017年度の授業概要を紹介する。概ね3年間同様の内容を継続しているが、各年度の反省点を受けて少しずつ改善を図っている。

第1回 全体概要、日程決定・発表用グループ分け、テーマ決定

『生徒指導提要』第1章「生徒指導の意義と原理」第1節の解説を行った。文部科学省(2010)『生徒指導提要』は「生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書」であり、教職につくものが必ず参照すべき文書(まえがき)であることを示した。生徒指導の実践に際し教員間や学校間で共通理解を図り、小学校段階から高等学校段階までの組織的・体系的な生徒指導を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書。教育委員会や国公私立の小・中・高・特別支援学校等に配布。教員採用試験でも全国で頻出の題材であると紹介した。

生徒指導の意義については「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」であり、「すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指す」ことであると紹介した。生徒指導の目的については「教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す」ことであることと紹介した。その解説に当たっては複数の文献を参照した⁷。実際に前年岡山県出題の教員採用試験問題の当該部分コピーを配布し、学生に解答させた。次にグループ発表要項を提示した。第6章の項目について、グループに分かれグループ発表、全8回(1回につき1グループ)。できるだけ節の順番通りに発表することとする。2017年度は「第6節 いじめ」は渡辺の講義とした。

提示した発表内容は以下の通りである。

- ・ 公式データ紹介 複数、最新版
- ・ データで明らかになること、ならないことは何か
- ・ 対応策の紹介、提案
- ・ 養護教諭としての在り方
- ・ 今後の課題

・参考文献（先行研究、研究論文、著書）、HPアドレス・閲覧日を明記。『生徒指導提要』当該部分は必ず使用すること。

第2回 筆者講義 『生徒指導提要』第1章2－5節の解説。教員採用試験情報誌を利用して2016年実施全国教員採用試験での生徒指導関連問題をまとめて配布し、問題演習を行った。

第3回 筆者講義 『生徒指導提要』第2章「教育課程と生徒指導」の解説。特に小学校では2018年度より道徳が教科化されるため、新しい道徳教育の特徴について解説した。いじめ対策が教科化の主要目的のひとつであること、いじめに関する道徳授業の内容について提示した。

第4回 筆者講義 『生徒指導提要』第4章「学校における生徒指導体制」の解説。P78の表の解説を中心に、学校全体の生徒指導組織の説明を行う。第3節では「年間指導計画」の事例について、先行研究の例を示して解説した⁸。

実際の対応の例として、いじめを事例に、論文を配布して説明した⁹。

受講生に男性がいたことから、男性養護教諭の増加に関する新聞記事を配布した。記事は主として保健業務上の内容であるが、生徒指導面でもメリットがあるのではないかと紹介した¹⁰。

以下、2017年度の発表内容を紹介する。2017年度実施の、第5回から第14回の10回である。それぞれの発表の特徴的な点を上げている。

2016年度は1時限2項目を配当した結果、それぞれの発表時間が2015年度よりかなり長くなり、総計90分ではとても時間が足りないという状況になった。そのため2017年度は、1時限に1項目に限定することとした。学生発表は持ち時間最大90分、発表・質疑応答・教員講評・補足という構成とした。2015/16年度は毎回質問が少数であったため、良かった点・自分ならこうする点・（任意）質問を、学習システム（webclass）上に「掲示板」を毎回設定し、掲示板に投稿することとした。掲示板への書き込みは書き込みを条件とし、受講生は誰もが閲覧できることとした。

2015年度は特にコメント提出は求めなかった。各発表時に若干の質問意見があったのみで、学生同士の意見交流がほとんどできなかったのが大きな反省点である。そのため、2016年度はコメントシートの内容をまとめてワープロに入力し、発表者に配布するという形式を取った。これは手書きのコピーだと筆跡で書き手が判明してしまい、自由な批判が行いにくくなることを懸念したためである。また類似のコメントをまとめて学生が読みやすくするための措置であった。結果、発表者がレポート作成時に意見を反映させることが可能になり、内容が充実した。しかし以下の問題点が生じた。

- 1；毎回40名以上のコメントをまとめ、教員がワープロに入力する労力が甚大である
- 2；コメントを発表者のみに開示したため、他の発表者が自分の発表の改善の参考にできない

よって2017年度より、学内のシステム活用を行い、ウェブ上での公開コメント入力と開示という方法に切り替えた。

第5回 第3節 喫煙、飲酒、薬物乱用

- ・薬物の値段（「覚醒剤の相場は1グラム6万円」）の紹介がなされた。薬物への政府等諸機関の防止対策が、喫煙・飲酒に比べて圧倒的に少ない事が紹介された。未然防止策として、児童生徒に未成年の行為についての新聞報道等を見せること、どんな処罰になるのかを具体的に知らせること、児童生徒の飲酒・喫煙・薬物は保護者の責任であり、止められるのも保護者であることを学校で呼びかけることが提案された。
- ・受講生全員で実演をしたのが、30秒間ぐるぐる回転した後の渦巻き図形の描画である。シンナー等の摂取者と健常者の違いを体感させたことで、受講生の興味が一段と深まったと思う。
- ・筆者からは、参考資料として「岡山県における『薬物乱用防止教育』について」を配布した¹¹。

第6回 第4節 少年非行

- ・現在の非行の特徴について、発表者は①核家族化の進行と家庭内のコミュニケーション不足 ②家庭の問題（家族の不在、保護者としての責務を果たしていない等） ③親の問題（しつけが一貫していない、支配的な態度）と推測して報告し、対応策について提案した。
- ・養護教諭の出来ることとして、発表者は先行研究の紹介とともに、①教育的予防に努めること ②担任やスクールカウンセラーと連携をとる ③保護者と連携を取り、児童生徒の変化に気づく の3点を提案した。
- ・岡山県学校警察連絡室の活動について紹介した。

第7回 第5節 暴力行為

- ・暴力行為の例として、種類別に報道による紹介があった。
- ・養護教諭のできる暴力行為の予防策について5点提示し説明した。
- ・暴力行為の事後対応として具体的事例をあげ、受講生に養護教諭としての対応を考えさせた。

第8回 第7節 インターネット・携帯電話

- ・インターネットや携帯電話の利用状況のデータの特徴の説明

- ・家庭でのルール等、保護者と児童生徒の意識のズレについての調査
- ・ネットいじめに関する動画の紹介を通して、ネットいじめの現状について説明した。
- ・筆者からは、岡山県のスマホ等の利用実態に関する記事を配布した¹²。

第9回 第8節 性に関する課題

- ・海外に比して日本の性教育は遅れている。今後の対策として、「正しい知識を教える」「教員が性教育への抵抗感をなくす」「より専門的な指導者から学ぶ」等の改善案を提示した。
- ・アンケート調査結果から、回答した高校の約74%で生徒が妊娠が発覚しているという事実は、多くの高校で共通した課題であると指摘した。
- ・性教育のみならず、性被害のデータ提示や、近年の子ども性被害が減少傾向にあるのは、警察庁の未然防止対策が関係していると指摘した。

第10回 第9節 命の教育と自殺の防止

- ・新聞記事2点の紹介（養護教諭山田泉さんの命の授業、自殺した野球部員への教員の叱責に関する記事）を紹介。
- ・養護教諭ができる命の教育の提案。1：性教育。命の尊さや命のつながりを学ぶ。2：食育。命に感謝して食べ物をいただくことを通して命のありがたみや大切さを感じることが出来る。
- ・養護教諭が出来る自殺予防策。1：児童生徒のサインを見逃さない 2：親身になって話を聞く 3：早期報告
- ・筆者からは、中高生の自殺が夏休み明けに集中傾向にあることを指摘し、新聞記事を配布した¹³。

第11回 第10節 児童虐待への対応

- ・児童虐待通告書、「子どもが心配」チェックリストの実際の手式を配布した。
- ・岡山県の小学校教員対象のアンケートデータの内容から、あまりにも教員の虐待に関する認識が甘いことを提示し、教員間の虐待認識の統一と強化をはかる必要があることを報告した。

第12回 第11節 家出

- ・コミュニティサイトに起因する犯罪は家出との関係が深いことに着目し、この犯罪について紹介した。サイト例として、家出少女が「神待ち」（金銭や食事を提供してくれる男性を募る）のためプロフィールや写真を掲載するものを紹介して注意喚起を行った。合わせて犯罪加害者側の動機の9割以上が性交やわいせつ画像等の目的である、等のデータを紹介し、養護教諭として認識すべき実情を解説した。

- ・ 実例として新聞報道を2件紹介。1件は少女がオンラインゲームで知り合った相手にすめられて家出をし、相手が誘拐罪に問われた事例、1件は家出少年が無差別殺人を行った事例である。
- ・ 行方不明児童生徒の搜索方法に、障害のある児童生徒への対応を挙げている点が特徴的であった。

第13回 第12節 不登校

- ・ 不登校の支援事例を2点挙げ、受講生に学校での実際の対応策について考えさせた。
- ・ 学校での未然防止策の一つとして「絆づくり」をあげ、中学新入生向けすごろくを実際に行った。
- ・ 「不登校特例校」について紹介した。

第14回 第13節 中途退学

- ・ 岡山県高校生の中途退学データのうち、学年別グラフの読み取り作業を受講生全体で行った。1年生が多い理由を考えさせた。
- ・ 高校中退者のその後の就労状況を調査し、パートやフリーターが多いこと、そのことによる社会的損失について論じた。

第15回 筆者講義・総括

筆者がいじめを題材に講義を行うとともに、総括を行った。いじめの定義の変遷・いじめデータの紹介と分析・いじめの4層構造・いじめ対策法の特徴と課題について概説した。いじめ対策のために、養護教諭らの2人配置校を増やす事例を紹介し、養護教諭の生徒指導体制上における重要性が高まっていることの現れであると説明した¹⁴。

前月に実施されたばかりの教員採用試験で、岡山県で『生徒指導提要』が3問、岡山市で「生徒指導Leaf」（国立教育政策研究所）が1問出題されたことを紹介し、実際に解答解説を行った。

V 3年間の実践の成果

- ・ 受講生同士が集まって協力して発表準備を進め、よりよい発表をめざして努力した。養護教諭としての対応策等、受講生が話し合って考えを提示する場面が多く見られた。パワーポイントや活字資料の提示の方法についてふりかえり、今後の課題を発見することが出来た。
- ・ レポート作成を通して、新たに調べたり考えたりして内容が深まった。3年間いずれの年度も、実際にパワーポイントの資料を文章化するにあたり、引用の技術を学んだり、新たに文献を調査したりすることを通して工夫がなされていた。新たな課題が判明し、今後の調査研究に活かすことが出来ると考えられる。

例：児童虐待を学校で未然に防ぐ取り組みが見つからなかった。未然に防ぐ方法を考えていきたい。

- ・ 学生からの質問や意見を通じて、発表者が新たに調査して知見を得ることが出来た。特に2017年度は掲示板から明確に「質問」という形で学生から反応があり、そのことに対して熱心に答えようと努力している姿が伺えた。レポート作成要項に「・発表内容に関する質問・意見を受けて新たに調べた内容や考察したこと、新たに判明した課題等を追加してまとめる。」と明記したことも影響したと考えられる（巻末【資料1】参照）。

例：養護教諭が暴力行為の解決にかかわった例について調べた結果、直接の事例は見つからなかったが、教員全員の声かけなど信頼づくりに取り組んだ結果効果が認められた事例はあった。発表者の考えとして、養護教諭は遅刻欠席総体等の状況を知って、それにかかわる声かけが可能となり、見守っているというメッセージを込められるという指摘がなされた。

- ・ 2016年度以降は養護実習（3年次9月）を目前にした時期での履修であるため、実習に当たっての自己課題設定に役立っていることを期待している。
- ・ 最新の教員採用試験の出題傾向や実際の試験問題（生徒指導、養護教諭に関する内容）を提示、解答して、教員採用試験準備への導入段階となることを企図した。
- ・ できるだけ最新の生徒指導と養護教諭に関するトピック（新聞記事、データ等）を紹介することを通して、養護教諭のおかれる生徒指導上の役割について学生自身が自分の問題として考えることを促した。

授業評価アンケートでの受講生からの評価はおおむね高かったと言える（アンケートは巻末【資料2】）。約70%の回答者が総合評価④（良い）をつけてくれた。

2017年度の自由記述は以下の通りである。おおむね筆者の授業意図が伝わったものと思われる。

- ・ 発表について

発表する機会はなかなかないのでとてもためになりました。

自分たちで調べたり新しいことが出来た。

1つの項目だけではあったが自分で調べたことですごく理解が深まった。

webclassの公開での質問や意見を掲示板に書くのは良かった。

- ・ 全体について

とてもわかりやすい授業でした。

現場に出ても、役立つ授業だと思った。

Ⅵ 3年間の実践を通しての今後の課題

- ・ 発表に対する受講生コメントの活用方法

授業評価アンケートでは「感想がその日のうちだとバイト等で間に合わないことがあるのでもう少し期限を伸ばして欲しい」という要望があった。これについては改善し、シス

テム上の投稿可能な日数を延ばすことにしたい。また何度も全員投稿を求め、平常点として採点対象とすることを説明したにもかかわらず、特定の学生の投稿率が低かったことは課題である。自分の意見をきちんと表明することの意義について全体にしっかり説明する必要がある。現状では発表者が受講生のコメントを参考に改善することを求めるものであるが、全体で共有すべき課題や改善点については、全体に提示する方法も工夫していきたい。

・学生の文献調査方法

学生には図書館で関係文献を広く調査し、多面的に考察するよう求めているにもかかわらず、参照する文献がインターネット上の情報に偏りがちである。検索して発見した資料を安易に用いてパワーポイントを作成したり、論文を参照するよう求めてもオープンアクセスの論文のみ引用（若しくは紹介のみ）する傾向は、一部の学生ではあるが続いているように思われる。受講生は常に他の授業や実習準備に追われる状況にあり、時間が限定されていることは考慮する必要はある。しかし4年次に卒業論文を執筆する訓練のためにも、多数の文献を渉猟し、批判的に検証して信頼性の高いもの、発表の論旨に合致するものを取捨選択して用いることを望みたい。

・発表の手法、指導に関すること

アンケートに「いじめのパワポをお手本として最初に渡邊先生にして欲しかったです」とあった。グループ発表をするにあたり要項は提示したものの、学生にとっては分量や構成、内容など、パワーポイント作成や諸準備に当たって不安感があったものと推察される。さきに例を出してしまうとスタンダードとして形を皆が踏襲してしまい、学生の発表の独自性が発揮できなくなるおそれがあり、いまのところは提示しない予定である。どうすべきかは今後の課題としたい。

・新教員免許法カリキュラム実施にむけて

2019年度より、新教員免許法のもと、教職課程の新カリキュラムが実施される予定となっているが、2017年11月の本稿作成現在、養護教諭のコア・カリキュラムは公表されていない。そのため、全校種対象の教員免許「生徒指導の理論と方法」のうち、「(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導」部分がさしあたり養護教諭の職務に直接関連する部分であると考えられる¹⁵。

一般目標：児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

到達目標：1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
※高等学教諭においては停学及び退学を含む。 2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。 3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

今後授業にはコアカリキュラムに示された内容を盛り込む必要があり、最新の情報収集

をおこないつつ、より充実した授業内容を構想したい。

中央教育審議会のチーム学校答申では、養護教諭は「主として保健室において、教諭とは異なる専門性に基づき、心身の健康に問題を持つ児童生徒に対して指導を行っており、健康面だけでなく生徒指導面でも大きな役割を担っている」と位置付けられ、全校体制では「養護教諭は、児童生徒の健康問題について、関係職員の連携体制の中心を担っている」役割であるとされている¹⁶。養護教諭の位置付けや具体的な業務のありかたについても、授業内容にとりいれて、さらに内容を充実させていきたい。

・Ⅲ章の先行実践報告の特徴3点について、現在の改善の方向(1)は筆者の授業では、現在のところ実施していない。先行実践研究の指摘で筆者が新たに気づかされたのは、受講生が不登校もいじめの経験もほとんどないという点が、筆者の授業の受講生にも当てはまるかもしれないということであった。彼等が個別の経験を通じて課題に関心を持ち深めることもあり、一方でまるで生徒指導上の問題には縁の無いまま現場での課題に向き合う学生もいるだろう。森らの授業は複数担当で1名は養護教諭経験者であり、現場経験者からの有益なアドバイスが可能となるという。大学の教育学担当教員であり、養護教諭の実務には門外漢である筆者が、いかにして大学の座学で実践的な関心を高めることができるかが、今後の大きな課題として残される。外部講師の招聘や学内の養護教諭経験のある教員の協力を仰ぐ方策を検討したい。(2)は、アクティブラーニングの実施について、さらに改良検討をすすめたい。たとえば、学生が就職後にアクティブ・ラーニングを教育実践に取り入れるための手法の提示¹⁷・岡田・竹鼻(2011)らの提唱する、「ケース・メソッド教育」という視点を盛り込むことも考えている¹⁸。ロールプレイングやディスカッションの導入も検討したい。(3)は、今後も40名以上の受講数が予想される。先行事例に比して大人数である。先行事例③では同じくプレゼンテーションを8回実施しているが、2テーマに絞られた内容となっていた。本実践で10テーマもの多彩な内容で実施が出来たのは、受講生がそれだけのテーマでグループ発表ができるほど人数が多かったからとも言える。前半講義でのグループ学習導入も検討事項とし、次年度以降も工夫をかさねたい。

¹ 岡山県総合教育センター(2013)「羅針盤」「保健室と連携した生徒指導体制づくり」

² 文部科学省(2010)『生徒指導提要』、p78、p93等。日本生徒指導学会編著(2015)『現代生徒指導論』、学事出版、pp.92-95。研究書の例をあげれば、石黒康夫(2015)『学校秩序回復のための生徒指導体制モデル』風間書房では教師の指導の方法を学校全体で統一させることが提唱されているが、「教師」という表現で管理職以外の教職員がほぼくられており、養護教諭の生徒指導上の役割は論じられていない。

³ 日本学校精神保健研究会「いじめ対策プログラム開発」チーム編刊(2015)『養護教諭のためのいじめ対策プログラム—保健室での「気づき」から「相談」「授業」へ—』。

⁴ 梨木昭平(2011)「教職課程「生徒指導論」の実践についての考察—養護教諭との連携—」

『太成学院大学紀要』 13、pp.285-296。

⁵ 梨木昭平・幡中理恵（2013）「養護教諭養成課程におけるロールプレイングについての一考察—『生徒指導論』を中心に—」『日本養護教諭教育学会誌』 16号2巻、pp51-56。

⁶ 森慶輔・黒岩初美（2017）「養護教諭養成課程「生徒指導論」におけるアクティブラーニングの試み」『看護学研究紀要』 5（1）、pp.25-33。

⁷ 柿沼昌芳・永野恒雄編著（2012）『「生徒指導提要」一問一答』 同時代社、日本生徒指導学会編著（2015）『現代生徒指導論』、学事出版等を参照した。

⁸ 片山紀子（2014）『新訂版 入門生徒指導』 学事出版、p37。

⁹ 新井肇（2014）「いじめ問題に対して、学校・家庭・地域はどう取り組むか」『教育時報』平成26年8月号。

¹⁰ 朝日新聞『「保健室の先生」男性じわり増加』2014.12.11付。

¹¹ 岡山県教育庁保健体育課「岡山県における『薬物乱用防止教育』について」『教育時報』2014年9月号。

¹² 「本県の児童スマホ等の利用実態について—H27年度調査結果から—」『教育時報』2016年10月号。

¹³ 「中高生 自殺させない」朝日新聞（大阪本社版）、2016.8.30付。

¹⁴ 「いじめ相談『こころの先生』にいつでも 保健室2人態勢拡大」京都新聞（滋賀）2017.2.16付。

¹⁵ 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会「教職課程コアカリキュラム（案）平成29年6月29日」2017/11/06閲覧。

¹⁶ 中央教育審議会（2015）「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）（中教審第185号）p28。

¹⁷ たとえば関田一彦・渡辺正雄編著（2016）『アクティブラーニングを活かした生徒指導』学事出版 では、いじめ予防のためのワークショップ、不登校予防のためのライフスキルトレーニング等の紹介がある。

¹⁸ 岡田加奈子・竹鼻ゆかり編著（2011）『教師のためのケース・メソッド教育』、少年写真新聞社。

【資料1】 生徒指導論 期末レポート 要項（2017年度）

各グループ発表内容をレポートにまとめ、提出のこと。

提出は各グループにつき1編。・A4サイズ、表紙つき。題名と全員の氏名明記。枚数分量自由。

・発表内容に関する質問・意見を受けて新たに調べた内容や考察したこと、新たに判明した課題 等を追加してまとめる。




- ・パワポの貼り付けではなく、論文形式にすること。
- ・各担当部分を明記すること。重複がないよう留意すること。
- ・引用、参考文献、HPアドレスを明記のこと。どの資料がどの文献、HPかわかるようにすること。HPは執筆した団体や個人名が明記されたものに限る。
- ・『生徒指導提要』はなんらかの形で使用すること。
- ・先行研究（研究書、研究論文等）は必ず使用すること。

【資料2】授業評価アンケート用紙・結果（2017年度）

授業評価アンケート

FD委員長 片岡 洋行

このアンケートは、授業担当教員が学生の皆さんと共に授業改善を図るために実施するものです。
学籍番号記入は重複回答を避けるためであり、個々の回答者名は、担当教員に伝わらないようになっています。
このアンケートは、授業科目の成績評価には一切関係ありません。安心して、正直かつ真摯に回答してください。
以下の設問について、最も当てはまる番号を選んでマークを塗りつぶしてください。

学籍番号	<input type="text"/>	注意事項 用紙は破損したり折り曲げたりしないでください。 鉛筆はHBまたはBを使用してください。 機械にかけるため、例のようにマークをしてください。 消すときは消しゴムで完全に消してください。 例) 良いマーク ● 悪いマーク   
授業科目名	<input type="text"/>	
担当教員名	<input type="text"/>	

【問.1】あなたはこの授業の予習・復習・課題提出などをどれくらいしましたか。週平均時間で答えてください。

- ④ 3時間以上 ③ 1時間～3時間 ② 1時間以内 ① していない

【問.2】あなたはこの授業に対して関係のないスマホ操作や私語をせず、主体的かつ熱心に取り組んだと思いますか。

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② あまりそう思わない ① そうは思わない

【問.3】授業内容は、教員が示す授業計画（シラバスなど）に沿って行われましたか。

- ④ 行われた ③ ある程度行われた ② あまり行われなかった ① 行われなかった

【問.4】教材（印刷資料・板書・視聴覚資料・eラーニング・課題など）は、有効かつ適切だったと思いますか。

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② あまりそう思わない ① そうは思わない

【問.5】授業の手法・進め方は、有効かつ適切だったと思いますか。

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② あまりそう思わない ① そうは思わない

【問.6】授業内容に興味や関心を持つことができ、理解できるものでしたか。

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② あまりそう思わない ① そうは思わない

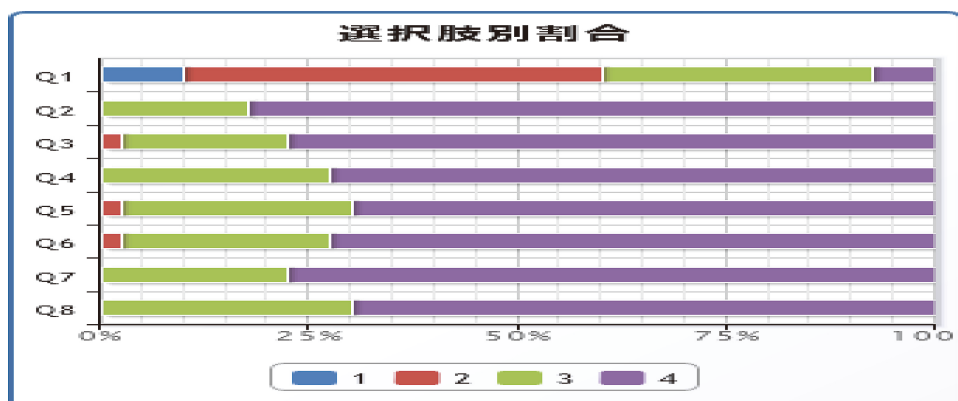
【問.7】この授業を受講したことで、授業内容に関する知識や技能などが向上したと思いますか。

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② あまりそう思わない ① そうは思わない

【問.8】この授業を通して、上記の問3～7を含めて総合的にどのように評価しますか。

- ④ 良い ③ どちらかといえば良い ② どちらかといえば悪い ① 悪い

【問.9】この授業について、良いことでも悪いことでも、改善に役立つと思うことを自由に書いてください。



回答番号	評定平均	評定平均
		(全体)
Q1	2.38	2.06
Q2	3.82	3.55
Q3	3.75	3.65
Q4	3.72	3.61
Q5	3.68	3.6
Q6	3.7	3.6
Q7	3.78	3.63
Q8	3.7	3.65

履修者数 45、有効回答数 40、回答率 88.89%